

# 令和7年度 学校評価 水上中学校パワーアッププラン

## 1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	「地域に誇りを持ち、生涯にわたって学び続ける生徒の育成」 ～地域とともに育む 人とつながり 学びに向かおうとする力～
本年度の重点目標	① 生徒の確かな学力の育成に向けた、主体的な学びを引き出す授業づくり ② 生徒が安全で安心できる居場所づくり ③ 教職員が協力・協働のもと、働きやすくやりがいを感じる環境づくり

## 2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	家庭連携・地域連携	【家庭連携】 オープンスクールの実施などにより、保護者等が来校される機会を増やすとともに、相談体制や情報発信の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」「信頼される学校づくり」を推進する。	A	オープンスクールを11月12・13日に実施し、両日ともに普段の授業の様子を公開した。また、PTA主催事業として、「1年生情報モラル講演会」および、シンガーソングライターの堤晋一さんを講師に迎えた「人権講演会」を開催した。保護者アンケートにおいては、89.6%が「開かれた学校づくりができています」と肯定的な回答があり、本校の教育活動への一定の理解と信頼が得られている。 今後も、ホームページ等を通じた情報発信の更なる改善を図るとともに、教育相談活動を充実させ、地域・保護者からより一層信頼される学校づくりを図る。
		【地域連携】 積極的にボランティア活動や、地域の中での活動に参加することにより、地域とのつながりを深化させ、ふるさと氷上の魅力を感じるとともに、自尊感情や自己有用感を高める。	A	1年生は総合的な学習の時間において氷上町内の事業所を対象とした探究活動を行い、事業所のポスター制作を通じて地域理解を深めた。2年生は「トライやる・ウィーク」の取組を通して、地域の事業所での就業体験を行うなどキャリア発達に資するものとなった。さらにボランティア委員会を中心に、独居高齢者の方々へ暑中見舞いや年賀状を送る活動、甲賀山児童館の活動やサマーボランティアにも多くの生徒が参加した。また、吹奏楽部による地域での演奏活動や、ユニセフ・赤い羽根等の募金活動にも積極的に取り組んだ。 11月のPTAリサイクル活動では、生徒が地域住民の方々と協力して作業にあたり、地域とのつながりを深める貴重な機会となった。 これらは、生徒の自尊感情や自己有用感を高める重要な活動となっており、今後も地域とのつながりを大切にしながら、社会の一員としての自覚を育む活動を継続する。
	安心・安全な学校づくり	【不登校・いじめの未然防止】 毎朝の健康観察、毎月の心のチェックシートを基にした面談、毎学期の教育相談活動、サポートルームの充実、自己理解、他者理解を深める人権教育の推進、個別支援等により、不登校傾向の生徒を減少させるとともに、いじめを許さない意識と実践力を育成する。	B	生徒支援委員会を毎週開催し、不登校担当・児童生徒支援担当・SSWを中心に、生徒の情報交換や支援の在り方の検討を組織的に行うことができた。未然防止策の1つとして、「心のチェックシート」を毎月1回実施した。また、サポートルームを2室開設し、不登校担当と不登校児童生徒支援員を中心に、生徒の状況に応じた個別の対応を行った。 「誰もが安心して登校できる居場所づくりをおこなっているか」の設問では、職員・保護者とも約80%が肯定的にとらえている。今後、不登校傾向生徒への早期対応と支援をさらに改善し、不登校生徒の減少につなげていく。 今後の課題として、「心のチェックシート」を使ったより効果的な未然防止の取組を行うことである。さらに不登校生徒にとってサポートルームがあるように、全校生徒の居場所づくりに全教職員で取り組むことが必要と考える。 いじめの未然防止対策については、教職員80%弱、保護者は90%弱と、おおむね満足のいく結果であった。
		【生徒の力による学校づくり】 生徒の主体的・自治的な学級や生徒会づくりを進め、すべての生徒が活躍できる場を実現することにより自尊感情や自己有用感を向上させ、将来に夢や希望をもてる生徒の育成を目指す。	B	教師の連携により、組織的に取り組むことができた。また、生徒会役員、専門委員長を中心に生徒自身が自分たちの力で活躍する場面をつくることができた。学校行事を通して学級の仲間と協力し、主体的に活動する場面が多くあり、行事を通して生徒が成長していった。取組が充実している反面、日常生活の中で、自治的な活動を推進する時間的余裕がなく、教師が提示した形式に従っている場面が多いため、行事により獲得した力を生かすことができていない。今後、自治的な活動を推進するための具体策を考え、夢や希望を実現できる生徒の育成を推進する。
		【安全管理】 交通事故の未然防止をはじめ、防災(減災)意識の高揚を図るとともに、安全な学校環境の整備に努める。	B	毎月行う学校施設の安全点検、PTAと連携した登・下校時の交通指導、セーフティーたんば号を活用したパトロール、災害を想定した防災避難訓練の実施など、生徒が安心して生活できる学校環境の整備や、防災意識の高揚に努めている。保護者アンケートでは、「交通指導などの安全対策」について否定的意見があった。また、交通マナーの乱れに関する地域からの指摘も数件あった。 交通事故の未然防止を図るための指導方法をさらに工夫し、生徒の意識向上に努める。
	教育課程	学習指導	【授業の工夫・改善】 ICTの積極的な活用や学び合い、個別最適化な学びを取り入れることにより、主体的に深く学び、確かな学力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲など)を育成する授業実践を行う。 また、授業公開ウィークの実施等に	B

教育課程	学習指導	より、授業の工夫改善に努める。		ができていないか]についての項目も肯定的な意見が低かった。学習習慣に関する生徒アンケートの結果とも関連付けると、学習に悩みを抱える生徒に対する支援には多く課題が残る。来年度は授業内での個別最適な学びについて研究を進めるとともに、「HAL」の進め方についても検討していきたい。
		【学びに向かう力の育成】 ICTの有効活用や対話を重視した学び合い、また見通しを持たせた授業展開等により、意欲的に学習に取り組む生徒の育成を図る。また、学習の時間「HAL」における自主学習の指導、家庭との連携、個別学習の支援等により、家庭学習を充実させ、自主的に学習に取り組む生徒の育成を図る。	B	生徒アンケートでは、「意欲的に授業を受けている」「授業はわかりやすく、よく理解できる」の設問に関して、肯定的な意見が約80%となっており、昨年度より改善傾向がみられる。保護者からも授業方針について、約70%の肯定的評価を得ており、学校全体の方向性は概ね支持されていると言える。一方、学年間で差があることが課題であり、3年生の肯定的意見の割合よりも、1・2年生の肯定的意見が低い傾向がある。特に、「家庭でどれくらい学習していますか」という設問では、1・2年生の約25%が、ほとんどしていないと回答しており、学習習慣の定着に大きな課題がある。保護者の記述にも「中間テスト廃止による学習習慣への懸念」に関する内容がいくつかあった。今年度より学習の時間「HAL」を実施し、学習の方法やモチベーションを維持する方法など、様々な視点からアプローチしてきた。 来年度は、改めて学校全体で小テスト・単元テストの実施について共通理解を図り、定期テストの有無に左右されない自律的な学習姿勢を育てるための具体的な手立てを考えていきたい。
課題教育	特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた多様な学びの場と適切な指導及び支援の充実を図る。また、関係機関との連携により切れ目のない支援体制の充実を図る。	B	教職員アンケートでは、支援の必要な生徒たちへの共通理解と支援の推進及びインクルーシブ教育の推進について、肯定的な評価が共に81.5%であった。「学校は分かる授業を行っている」と答えた生徒と保護者は約80%であった。これらは昨年度より減少している。今後は、定期的開催している特別支援教育委員会の協議内容や確認事項を教職員全体の共通理解とすることを徹底し、個別最適な学びにつながる授業の工夫を図っていく。特別支援学級在籍生徒をはじめ、支援の必要な生徒については、個別の指導計画や個別の教育支援計画(サポートファイル)などを活かした指導体制の充実にも、小中交流会や相互の授業参観などを活かして連携を進めていきたい。
	人権教育	命を大切にする心や思いやりの心など「心の教育」の充実を図るとともに、あらゆる活動を通して多様な価値観を認め、自他ともに大切にすることを推進する。	A	「道徳」を軸に、すべての学校教育活動において、多様な価値観を認め、自他共に大切にすることを推進した。人権学習に主体的に取り組むことを重視し、学年や、「とのわ(校区事業)」での学びは、発表の機会を設けて全校生に還元することができた。生徒アンケートでは、「学校へ行くのは楽しい」と考えている生徒が88%と昨年度より5%増加した。「学校は命を大切にする心、思いやりの心などを育む教育を行っている」と答えた保護者が83%(昨年度より2%増)、「学校は人権感覚を磨きいじめや差別のない集団作りを行っている」と答えた保護者が78%(昨年度と同じ)など、高水準を保ち、生徒の実践力が身に付いてきたと言える。今後も、生徒が自ら意見を持ち、人権教育で培った意欲や態度を実際の行為に結びつける実践力や行動力を育成していきたい。
	情報教育	PTAと連携した情報モラル講演会の実施や生徒会によるスマホルール作りなどにより、スマホやゲームに依存する生徒や個人情報の管理が未熟な生徒を減らし、SNSによるいじめの未然防止に努める。	B	情報モラルに関する講演会(1年生親子活動)を実施したり、道徳教育等の中でSNSトラブルについての学習をしたりすることができた。文化祭では、生徒会本部がSNSに係る演劇を通して啓発した。その結果、生徒が発信した内容に対して疑問を持ち、相談をする生徒が増えたことは評価できる。しかし、トラブルも一定数起きており、これらの取組を定期的に行っていく必要がある。また、講演会は、2・3年生対象にも開催するなど、日々多様化していくSNSツールに対応していく必要があると考える。 家庭でのスマホ使用時間は、1日3時間以上と回答した生徒が36%と、昨年より増加している。トラブル等に対して市教委からの相談ツール(スタンドバイ)の活用等と呼び掛けている。さらに、家庭内での使用ルールの作成等、保護者と協力した対策が必要である。

### 3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートより家庭連携が保たれていることがよくわかる。「情報発信のさらなる改善」や「教育活動を充実させ」とは、具体的にどうするのか。</li> <li>・地域連携については、具体的な取組がよくわかってよい。</li> <li>・不登校対策を丁寧に組織的に行っていることがわかった。不登校生徒が0人にならなくても取組の達成状況としては、「A」にしてよいのではないかな。</li> <li>・具体的な取組内容を、もう少し示してほしい。また、「高い」「低い」という記述があるが、具体的な数値を示して比較する方がよい。</li> <li>・「HAL」の取組はとてもよい。1年後の検証を具体的にこに行い、来年度につなげてほしい。</li> <li>・学習では、つまづいているところをいかにしてクリアするかが大切ではないか。小中連携も大切ではないか。</li> <li>・「学校へ行くのは楽しい」と考えている生徒が88%と昨年度より5%増加したことはよかった。先生方の取組や生徒への関りに敬意を表したい。</li> <li>・情報モラルに関する講演会は、2・3年生にも必要ではないか。(SNSのトラブルが増えている)</li> </ul>
--

### 4 次年度の改善の方向性

<ol style="list-style-type: none"> <li>①家庭及び地域連携、情報発信等の工夫、さらに生徒や保護者とのコミュニケーションを密にすることにより、「開かれた信頼される学校づくり」を進める。</li> <li>②すべての教育を人権基盤で捉え、自他ともに大切にしたい安心できる居場所としての学校作りを推進する。そのため不登校対策を組織として行うとともに、生徒の主体的・自治的な活動の機会を確保し、自尊感情や自己有用感の向上を図り、将来に夢や希望を持てる生徒の育成をめざす。</li> <li>③部活動の地域展開が進む中、部活動が学校教育に果たしてきた役割を再確認し、新たな学校づくりの機会と捉える。</li> <li>④「HAL」の取組を継続するとともに小テストや単元テストの意義について再確認し、自ら学びに向かう力の向上を目指す。</li> </ol> <p style="text-align: right;">令和8年2月26日 学校名 丹波市立氷上中学校 校長 大槻 隆浩</p>
--